

令和6年度第3回大野城市立中学校給食選択制度向上委員会（概要）

1. 日 時 令和7年2月10日（月） 午前10時～午前11時30分

2. 場 所 大野城市役所 本館4階 全員協議会室

3. 出席者等

（1）出席委員

・太宰委員長 ・萩尾副委員長 ・井上委員

【欠席】 渡邊委員、村田委員、梅野委員、松本委員

（2）事務局

・若山教育部長

・教育政策課 光野課長、川口係長、菊地栄養士

（3）傍聴者

・2名

（4）報道機関

・1社

（5）公開の可否

公開

4. 議 題

（1）ランチ給食の喫食数等の状況及び喫食割合について

令和6年12月は、平均食数が1374.7食で、前年同月比が17%増加となった。全体の喫食割合は、弁当46.2%、ランチ給食45.4%、パン8.4%となっている。

《意見等》

委員長 合計100%ということは、重複しているということはないのか。

事務局 ランチ給食とパンの食数はカウントしているので、全生徒数からランチ給食とパンを引いた割合が弁当という形で計算している。

（2）令和6年度中学生の食事に関するアンケートの結果について

前回よりも全体的に回答率が減少した。次回は再度実施時期について検討を行う。質問項目のうち、「自分の希望に応じて選べるのでよい」「食缶方式として、みんなが同じものを食べるほうがよい」に対する回答の結果及び両質問のクロス集計の結果、「今の昼食時間（長さ）」「弁当を作ってもらふことへの感謝」「学校での昼食」に対する回答結果、「学校での昼食」に対する回答結果の詳細分析について報告をした。また新規の質問として「睡眠時

間」「食文化（郷土料理）」の回答結果、また、他市のアンケートとの比較結果等を報告した。

《意見等》

副委員長 学校で昼食を食べているかについて、アンケートに矛盾があったと報告があったが、中学校へフィードバックはされるか。

事務局 匿名アンケートでだれがどのような回答をしたかはわからないが、学校毎での分析はできるため、学校に結果を周知、報告する。気づいたことがあれば教育委員会へ相談するように伝えることとする。

委員長 就寝時間と朝食をとっているかのクロス分析をしてみたらよいと思う。朝は部活動等で起きると思うが、朝食を食べていない人は就寝時間が24時以降の人が多いのではないかと考える。食を変えると毎日の時間も変わるため、生活習慣の安定につながると思う。

委員長 他市との比較は、明らかに良好な結果と思うので、もっと発信してはどうか。家庭のことを考えると（全員制給食は）助かることはわかるが、家庭で何かを作る習慣ということが定着しにくいだろう。大野城市の選択制給食による効果を含めて、もっと発信していったほうがよいと思う。

委員長 「(食事の) 手伝いをしている」には、食事の片付け、準備も含めるのか。

事務局 他市の結果は含めている可能性があるが、大野城市は食事の片付けや準備は含まずに、純粹に食事を作っているという回答になっている。

委員長 成果を発信するときは、質問内容の違いを明確にして発信したほうが良い。

事務局 本日欠席の村田委員より質問や意見をいただいている。まず、①前回アンケートの回答率と比べ、生徒・教職員の回答率が大きく低下しているが、その理由は何と考えているか、という意見をいただいた。アンケートは任意の回答であるが、回答率が下がったことは反省点である。学校が回答しやすい時期やタイミング等を検討して、回答しやすいアンケートを作成していく。

事務局 つぎに、②学校でどのくらい昼食を食べているかの質問で「ほとんど食べていない」との回答には、他の質問で矛盾があったと報告しているが、質問の意図が分かりにくかったかもしれない。欠食の経験や頻度をたずねたらどうか、との意見をいただいた。今後ご意見を含め、回答しやすく矛盾が生じにくい質問内容や形式を検討し

ていく。

事務局 つづいて③小学校の給食のように食缶方式の給食が良いという質問について、そう思う（34%）、そう思わない（38%）に大きな差がない。これについて、委員の意見をお伺いしたいと意見があった。追加資料のクロス集計表のとおり、どちらともよい、と思っている人が一定数いると考えている。

副委員長 クロス集計の説明があったように、選択給食でも小学校の給食でも良いと思っている割合が、34%であると捉えた。

委員長 （給食の制度について）強く意識していないという答えが一定数あると思う。

事務局 どれが正しいというのはわかりにくい、客観的に見た時の答えではないかと考える。

委員長 生徒の方が、保護者よりも選択制が良いと評価しており、明確に相違がみられるところはポイントと考える。両方で質問しているのでこういう結果となってしまう。

事務局 アンケートの質問方法として、択一方式は意図に沿わない回答になると考えており、「どちらでも良い」という選択肢もあると考える。

事務局 つぎに④令和4年2月の委員会で、なぜ選択制を採用したのかと質問をした際、「生徒の希望が選択制を指向していたため」であり、「今後保護者の意見とのギャップを埋める必要がある」という回答だった。アンケートの結果を受け、今後どのような取り組みをされていくのかとの質問については、今後も選択制給食について継続して周知、啓発を行っていく。

事務局 つぎに、⑤アンケートの自由記述欄について、全て公開はできないか、という意見については、全ての意見の公開は前提としておらず、抜粋というところで公開している。ただし、本委員会委員については、希望があれば、公開可能と考える。

事務局 つぎに、⑥教職員を除いた喫食割合について生徒のみの割合を知りたい、との意見をいただいた。喫食数＝注文数だが、生徒のみの喫食割合となると、全生徒の母数から当日の欠席者を引いて、注文数から教職員の注文数を引いた割合となる。教育委員会には、毎日の学校の欠席者数のデータがないため、正確な数値は出ない。なお、教職員の食数は平均で110食程度である。

委員長 単純に数値化すればいいのではないか。

事務局 大まかな推定はできるが、正確、詳細となると学校からの報告を

要すると考える。

(3) 報告事項について

- ・試食会についての途中経過を報告
- ・令和7年度以降のランチ給食の保護者負担額が変更⇒1食280円

《意見等》

井上委員 試食会が大変良いと思う。保護者にランチを食べていただき感想を聞いてランチ給食がどのようなものか周知していただけるのは良い機会になっていると思う。

(4) 本委員会の3年間の総括について

本委員会の3年間の活動内容を報告

《意見等》

なし

5. その他

事務局 今後の本委員会の在り方については、現在検討中である。内容が決定次第あらためて個別にご連絡する。

《意見等》

なし